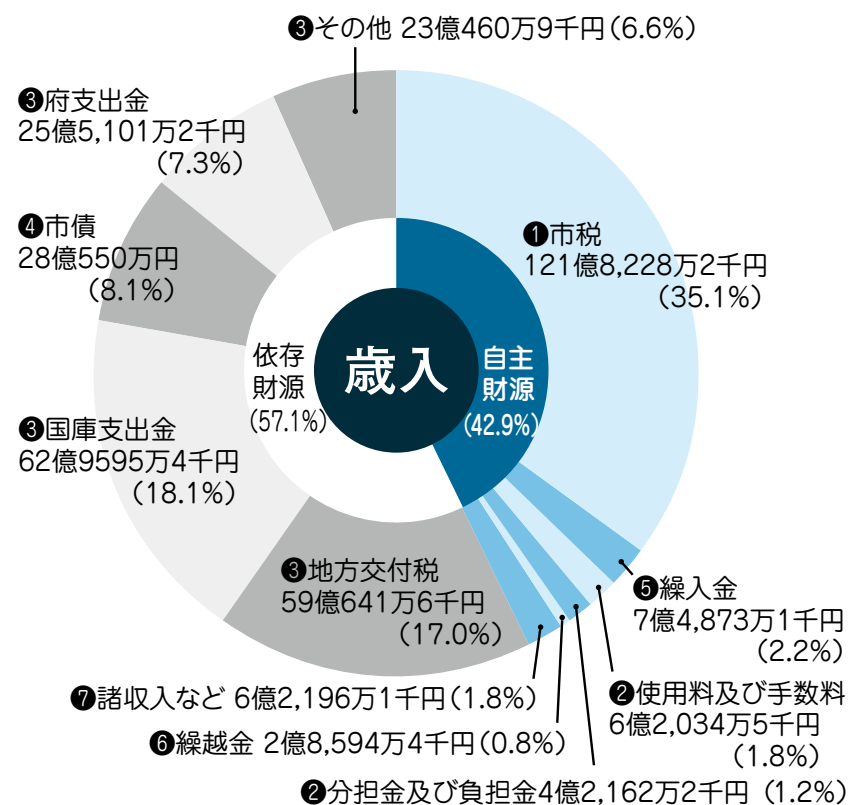


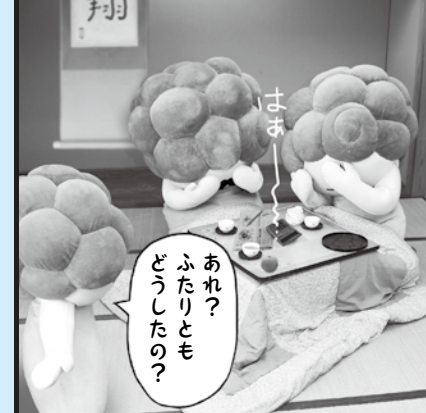
歳入 347 億 4,437 万 6 千円



平成28年度の決算が市議会にて認定されました。翌年度へ繰り越す財源を差し引いた実質的な収支は1721万7千円で、財政調整基金を2億2千万円取り崩し、ようやく黒字決算となりました。経常的な支出が経常的に入るお金に対してどれくらいの割合かを表す指標を「経常収支比率」といい、前年度から2.7ポイント悪化し、99.1%となりました。府内都市平均97%を2.1ポイント上回っており、依然として高い水準です。

そこで、市民のみなさんの税金などがどのように使われたのか、平成28年度一般会計の財政状況を月収30万円のモックル家の家計簿に例えてお知らせします。

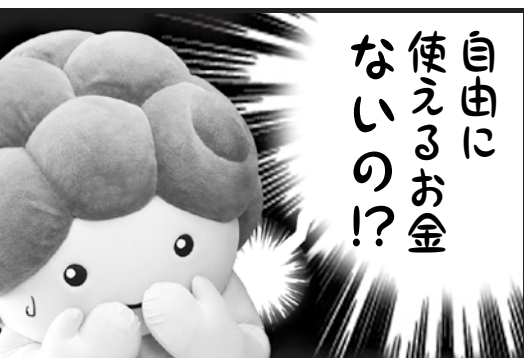
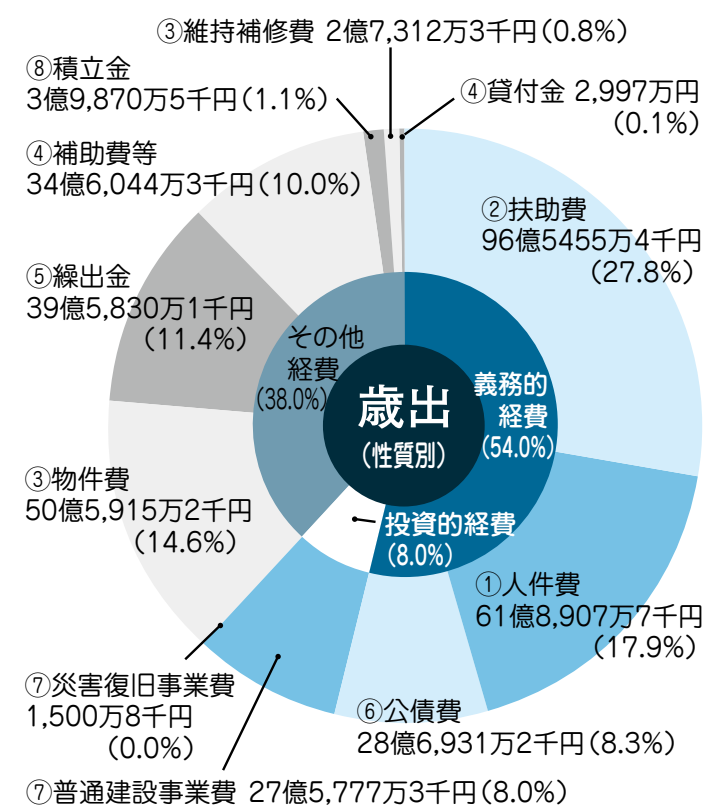
問い合わせ 財政課



モックル家の家計簿

●今月の焦点1 平成28年度決算報告

歳出 346 億 6,541 万 8 千円

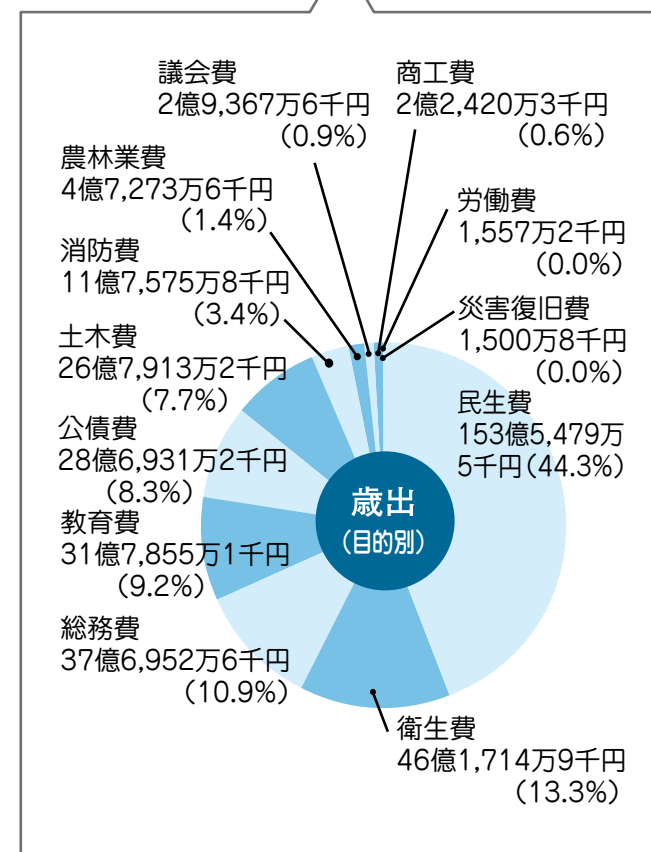


モックル家の月収が30万円としたら

(単位：円)		収入
市税①	市民税や固定資産税など	①給与収入 105,200
使用料、手数料など②	施設使用料や住民票交付手数料など	②パート収入 9,000
国庫・府支出金など③	国や府から給付されるお金など	③親族からの援助 147,300
市債④	金融機関などから借り入れたお金	④金融機関からの借入 24,200
繰入金⑤	貯金を取り崩したお金	⑤貯金の取り崩し 6,400
繰越金⑥	前年度から繰り越されたお金	⑥前月からの繰越金 2,500
諸収入など⑦	財産の売り払いや寄附金など	⑦雑収入 5,400
		A 300,000
余ったお金		A - B = 700



(単位：円)		支出
①食費	53,400	①人件費 職員給料や議員報酬
②医療費・教育費	83,400	②扶助費 生活保護費や児童手当など福祉に使うお金
③光熱水費・日用品・修理	46,000	③物件費など 物品・原材料購入費や修理代など
④自治会などの会費	30,100	④補助費など 各種団体に交付する補助金や貸付金
⑤子どもへの仕送り	34,200	⑤繰入金 特別会計に対して支払うお金
⑥ローンの返済	24,800	⑥公債費 市債の元金や利子の支払金など
⑦家の増改築	24,000	⑦普通建設事業費など 道路や学校などの建設や改修など
⑧貯金	3,400	⑧積立金 貯金に積み立てるお金
		B 299,300
※貯金残高、ローン残高については、年収360万円とした場合		貯金残高 920,400
		ローン残高 6,555,600



※家計簿の番号は上記円グラフの番号と対比しており

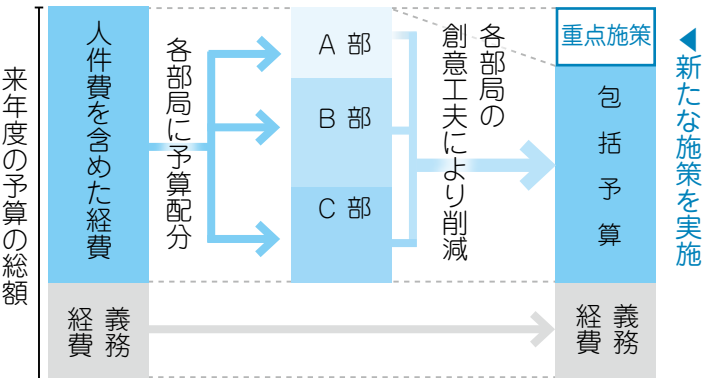
同じ比率で家計簿の数値を算出しています。

■貸借対照表（バランスシート）（平成29年3月31日現在・一般会計）

貸借対照表は、どのような資産を保有しているかと、その資産がどのような財源で賄われているかを示した表です。※下記（）内は前年度比較。

■資産	1,483億9千万円 (△26億2千万円)	■負債	373億1千万円 (△3千万円)
	市が保有している土地や建物、債務返済の財源などの総額		将来の世代が負担する借入金（市債）などで、返済が必要な債務の総額
	【内訳】		
	公共資産 1,389億8千万円 道路、公園、学校など (△18億6千万円)		■純資産 1,110億8千万円 (△25億9千万円)
	投資など 64億9千万円 基金、積立金、出資金など (△2億7千万円)		現在までの世代がすでに負担し、将来の世代が返済する必要のない正味価値の総額
流動資産	29億2千万円		
現金・預金、未収金など	(△4億9千万円)		
合計	1,483億9千万円 (△26億2千万円)	合計	1,483億9千万円 (△26億2千万円)

■包括予算のイメージ



市長に聞きました

来年度予算編成について教えてください。

市長として、河内長野市に住んでよかったと満足できるように、市民サービスの向上に取り組む一方、減少していく市の収入に合わせ、支出を抑え、収支を合わせなければならぬという重責も負っております。

昨年、今年度予算を編成する際に、断腸の思いで、「事業仕分け」のような取り組みを実施しました。しかしながら、現場には現場の考えがあり、現場の思いや努力を、書類と意見陳述だけで判断するには無理があることを理解しました。

そこで、来年度予算編成には、「包括予算制度」を導入します。この制度は、各部署に対して予算総額を提示し、部署内の各事業にお

ける予算配分を部局に任せ「現場主義」の制度です。ただし、予算総額が税収の減額に伴い減少しますので、どの事業を削るかを各部署が自主的に決めることとなります。来年度は行政サービスの遂行上どうしても減額できない経常的経費や、行政の重要課題解決に必要な重点領域経費を除き、約8%削減した総額で予算を組まなければならない状況です。

引き続き、支出抑制を工夫するだけでなく、ふるさと納税の拡大など収入増加に努めてまいります。また、複式簿記による発主主義会計を導入しコストの見える化を図り、効率的な行財政運営を実践していきます。

河内長野市長 島田智明

複式簿記・発主主義会計による財務書類を作成

来年度の予算編成について

■特別会計・公営企業会計の決算（単位：千円）

会計名	歳入	歳出
特別会計	27,651,428	26,477,081
国民健康保険事業	16,127,694	15,202,683
土地取得	124,611	124,611
部落有財産	14,853	14,853
介護保険	9,546,986	9,350,411
後期高齢者医療	1,837,284	1,784,523
水道事業会計	3,783,647	4,541,281
収益的収支	2,713,933	2,393,761
資本的収支	1,069,714	2,147,520
下水道事業会計	5,305,537	5,889,390
収益的収支	3,085,819	3,107,933
資本的収支	2,219,718	2,781,457

■基金・市債の状況（単位：千円）

種類	金額	主な使い道
基金	8,883,069	
財政調整基金	2,325,250	財源不足への対応
普通建設事業基金	1,183,623	一般建設事業
減債基金	404,528	借金の返済
その他特定目的基金	4,794,273	公共施設維持改修基金など
水道事業基金	175,395	用地取得・施設整備など
市債	63,269,731	
臨時財政対策債等	19,453,878	財源不足への対応など
通常の建設地方債	13,271,460	公共事業等債など
水道事業債	4,761,214	建設改良事業費
下水道事業債	25,783,179	建設改良事業費など

※市民1人当たりの基金の額は82,279円、市債の額は586,032円です。（平成29年3月31日現在の人口：107,963、世帯数：47,352）

＼ひとまずセーフ／

この値を超えると

黄色信号

赤信号

健全化判断比率	指標	河内長野市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率※1		— (△0.08%)	12.42%	20.00%
連結実質赤字比率※2		— (△19.48%)	17.42%	30.00%
実質公債費比率※3		3.4%	25.0%	35.0%
将来負担比率※4		— (△9.2%)	350.0%	—
資金不足比率※5				
公営企業会計	河内長野市	経営健全化基準		
水道事業会計	— (△140.6%)	20.0%		
下水道事業会計	— (△26.6%)			

比率が生じない場合は「—」で表示、参考値の比率を（）内に掲載

- ※1 普通会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
- ※2 すべての会計の赤字から財政運営の深刻度をみる比率
- ※3 借金の返済額などの大きさから資金繰りの危険度をみる比率
- ※4 市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度をみる比率
- ※5 企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度をみる比率

河内長野市は早期健全化基準を下回っているでしょ？

ほっ

超えたら危ないんだねひとまず安心？

本市では今後、人口減少や人口構造の変化などによる市税の減収が予想される一方で、高齢化による社会保障関係経費の増加、公共施設の老朽化対策関係経費の増加が見込まれます。このような厳しい状況の中、財政収支を踏まえた施策・事業の選択と集中による財政基盤の確立がより一層必要となっています。

そのため、定住・転入の促進や産業振興などにより、さらなる歳入の増加に努めます。歳出面では引き続き、効率的・効果的な行財政運営に努めるとともに、既存施策・事業を見直し、新たな住民ニーズに対応した施策や事業に組み換えていくことで、市の発展に向けたまちづくりを展開していきます。

次代を担う子どもたちに負担を先送りせず、さまざまな環境の変化に対応できる財政基盤の構築と健全な財政運営の確立にご理解をお願いします。

ぺこり

市債って借金のこと？

えっと…、いち、じゅう、ひゃく…

632億！

借金多くない？

長く使う道路や施設は市債で将来の住民にも負担してもらったよ

ふむふむ

事業費の削減や基金の活用で市債残高は減ってきているんだ